厚生労働省　精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業

地域包括ケアNEWS（精神）

第５号
2018. 11

浜松市の取り組みについて

9月12日（水）、静岡県浜松市内の病院にて、「浜松市障がい者自立支援協議会地域移行・定着専門部会における事例検討会」が開催されました。浜松市は、5月の第１回アドバイザー・実施自治体担当者合同会議にて取組報告をしてくださいましたが、今年度の計画のひとつに「地域移行支援の受け皿作り（事例検討）」を掲げており、病院の事例および会場提供のご協力を得て、実現に至りました。

当日は、浜松市障がい者自立支援協議会地域移行・定着専門部会のメンバー（密着AD2名を含む）、病院関係者が参加し、広域ADを交えて、事例検討、意見交換がなされました。

【参考：浜松市の地域移行・定着に関する取組】

平成23年度～　浜松市地域移行支援事業を実施
平成26年度～　浜松市障がい者自立支援協議会地域移行専門部会がスタート
平成29年度～　浜松市障がい者自立支援協議会地域移行・定着専門部会に移行
　　精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業参加

・地域移行専門部会は協議の場として、モデル実施や意見交換会キャラバンなどの活動の成果につながる
・多方面の支援機関関係者に関心を高めていただくため情報を発信
（地域移行・定着専門部会だよりを発行（浜松市地域移行・定着専門部会のウェブページに掲載）
※第１回アドバイザー・実施自治体担当者合同会議資料・浜松市地域移行・定着専門部会ウェブページより

浜松市障がい者自立支援協議会地域移行・定着専門部会における事例検討会

日　時　：　平成30年9月12日（水）　14:00～16:00
場　所　：　静岡県浜松市内の病院内会議室

■事例提供（病院）

ケースの患者を担当する相談員・看護師から、本人の生育歴、家庭環境、部活動での活躍や挫折、発症の状況、就業状況、治療状況、入院生活などを共有しました。

担当スタッフが退院を検討する背景として、
✓ 患者は入院時と比べて落ち着いて、職員や他の患者ともうまくやっている
✓ 外泊時に家事をした（家族との関係）
✓ 買ってきた雑誌（本人の興味）や好きなゲーム（接点づくりの期待）
などがありました。

他方、本人は退院したい気持ちがありつつも、また家族や周囲とうまく暮らせるのか不安感を感じていることも共有されました。
参加者から質問をして、さらに情報を引き出しながら、本人の状況について理解を深めていきました。

■事例検討（プラン立て）

退院後の生活を安定させるにはどうするか、どのようなサポート体制を整えるかという観点で、参加者から意見を出し合いました。
✓ 事業所の活用（ピアサポーターとの面談やゲームに誘って外出機会を作る）
✓ 受け入れる家族の気持ち（不安など）
✓ 服薬のサポート
など

担当の相談員と看護師が、出された意見の中からまず取組むことを選定しました。さらに、実行に移しやすいように、誰がいつまでに、どのように取組むかを仮決定しました。

本人は退院したい気持ちも不安もあることから、退院意欲を高めたり、外部との関わりを持ったりすることを、少しずつ進めていくことが確認されました。また、家族の受け入れ意思も把握することが確認されました。

■まとめ・講評

増田密着AD（事例検討の進行）のまとめ

「まずは本人とお母さんが退院について実際どう思っているのか、確認していただきたい。この方は服薬がキーなので、先生、薬剤師と相談しながらじっくりと。病院の外でも安心できる場所はある、支えてくれる仲間がいることを少しずつ理解してもらえると、外に出てみようという本人の意欲が上がってくるのでは、というプランになった。今日の事例検討を良いキックオフとして病院と地域のチームが課題を整理する機会を作って、実行していくとよいだろう。」

望月広域ADの講評

「参加型の事例検討を通じて、一人の事例からみんなの事例になり、次のステップが少し見え、それぞれのやっていることが少しわかる。どこかに押し付けるのではなく、一緒にやりましょうということもよく出てきた。病院が熱心に本人の支援に取り組まれてきている。今日は本人を真ん中において検討ができた。本人が退院して安心して暮らすというところにつながっていくとよい。」

◆◆◆浜松市の今後の取り組み・展開に向けたアドバイス◆◆◆

◎広域ＡＤ　望月　明広　氏

浜松市では「地域力アップ」をテーマに精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。今回の事例検討会もその一環で行われました。構築支援事業への参加は２年目となりますが、密着ＡＤの皆さんのチームワークのもと、さまざま機会を活用して具体的な連携づくりの場がそこかしこで設けられてきているように感じています。「巻き込む」を協議の場（地域移行専門部会）の運営のねらいとしており、今回の事例検討会でも病院の多職種や地域包括支援センター職員の参加がありました。

地域包括ケアシステムの本質は一人ひとりの支援を具体的に一緒にやっていくこと、その積み重ねだというように考えていますが、今回のような場がまさにそういったことの基礎になると改めて感じました。具体的な個人の地域生活の実現を一緒に掘り下げて考えていくことで、ピアサポーターの支えや介護保険との連携などの必要性を実感を伴って共有できました。病院、福祉、行政のそれぞれの役割もクリアになったと思います。今後はこのようなモデル実践を重ねて、医療と福祉の連携の仕方や地域相談の活用のイメージを共有し、仕組みをつくり、他のエリアへも横展開を図っていくという目標設定をしてるところですが、これまでと同様に専門部会を軸に、市全体を俯瞰した戦略を立てて取り組んでいただければと思います。

また、本人中心の生活支援、地域移行を担える人材の育成の必要性も感じているところかと思います。密着ADの皆さんの活躍がさらに期待されるところではありますが、引き続き広域ADも積極的にご活用いただければ幸いです。

★平成30年度に作成予定の手引きのご案内

本事業では、今年度中に「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き（仮称）」を作成いたします。

この手引きは、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについての理解を、精神保健福祉医療政策の動向なども踏まえながら解説することで促進し、かつ、地域包括ケアシステムの構築に向けた具体的な事業や取組について、事例等も交えながら解説を行うものとなっております。

今後の作成状況等については、平成31年2月に開催が予定されている都道府県等担当者会議やアドバイザー・実施自治体担当者合同会議においてもお伝えできればと考えております。

【編集後記】

11月に入り、暑さも和らいだと思えば、今度は肌寒い日が続いております。今号を作成している10月下旬～11月上旬では、事務局のある都内はまだまだ青葉が目立ちますが、全国的には紅葉が見ごろになっているとのことです。

皆さまお忙しい日々をお送りだと思いますが、葉の色の移り変わりにふと目を移し、季節の移り変わりを感じてリフレッシュしつつ、気温の変化で体調を崩さないよう、ご自愛ください。

厚生労働省　社会・援護局
障害保健福祉部　精神・障害保健課
担　当　：　柿澤、瀬戸、小河原、稲葉

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業事務局
（株式会社日本能率協会総合研究所）
担　当　：　田中、河野、政岡、玉木、川崎
電　話　：　0120-876-300
メ－ル　：　houkatsu_care@jmar.co.jp

当記事に関するお問合せは、事務局までお寄せください。